



ダンス部

現況：女子人気ナンバーワンの人気部活へ

未来

競技としての成熟と確立

別項でもお伝えしているとおり、全国の中高ダンス部は2,000校・人口60,000人を越えると言われ、今年には女子人気ナンバーワン部活としての認知も進んでいくだろう。コンテスト作品も年々レベルアップしていくが、勝ち負けよりも自主性・協調性・創造性を重んじる傾向が強くなり、現場ではさまざまなアクティブラーニングが生まれている。文科系でも体育会系でもなく、練習は楽しくとも楽しさと華やかさがあり、初心者でも全員参加で取り組める……そんなバランスの良い「部活ダンス」の盛り上がり要因なのだろう。大会は年々増えているだけに、審査基準や統一ルールの確立がさらなる認知を広げられる。また、その健全なイメージからか、2015年は神奈川・東京と自治体が変わる大規模なダンス部大会が開催された動きにも今後は注目したい。



キッズダンス

現況：ブームから買い手としての定着化へ

未来

ダンス大国への発信源

2010年ぐらいから一気に人口が増えたキッズダンスは習い事ランキングで上位に定着し、各種スクールやプログラムも多数。第一黄金世代と呼ばれる2000年前後生まれの元キッズダンサー達が、ダンス部やダンスシーンで大人顔負けのパフォーマンスを見せ始めている。髭原小春はじめ、スポーツや芸術と同じくキッズ時代からの取り組みが、将来のスーパープレイヤーを育てるのだ。



大学・専門学校

現況：大学サークルの大規模化

未来

踊れる企業人が当たり前？

大学のダンスサークルの大規模化は数年前から始まっており、在学中から世界で活躍するレベルの猛者もいる。東京六大学や国立六大学でもダンスが盛んで、在学時代からダンスを活かした起業や就職を考える若者も多い。企業がこれから求める若者像はクリエイティブとコミュニケーション能力。ゼロから何を生み出し、組み合わせ、それをどう人に伝えていくか……ダンスで身につけたセンスや能力が進学や就職に活かされる時代も近いも知れない。逆に、プロダンサーを目指すならダンススタジオや専門学校への進学も定石となってきた。また高校卒業後に一気に海外に飛んで夢をつかむ若手ダンサーも続々と現れている。ダンスはノンバーバル(非言語)表現。可能性は無尽だ。

DANCEで変わる!

教育

ダンス授業

現況：2012年の公立中学授業の導入から4年

未来

ダンス教育の成熟化

ニュース性の高かったダンス授業の導入だが、実態のところは学校によって取り組み方や熱心度はまちまちで、まだまだ課題が多いと言えよう。ただし、未来の教育に必要なクリエイティブと協調性を育てるには、ダンスとアートの積極導入が必要という研究もあり、ダンス授業やダンス部の課題や成果を元にした新時代教育への効果的なダンスの導入が望まれる。



ダンスをとりまく日本の未来は「どう変わる?」
 ↓
 この数年でダンス界にしてダンス部の盛り上がりは最大のトピックである。同時に、ダンスに関わる周辺環境もどんどん変わってきた。その現況と予想される未来を「教育」「芸術」「健康」という軸で見てもよい。すべて、ダンスを愛する君たちの未来に関わることだ。

2016年

DANCEが描く

未来予想図